

- * 「わたしはまことのぶどうの木」（15：1）「ぶどう」とはイスラエルの民を指している。「わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。」（エレミヤ2：21）イスラエルの民はマナセ王の時代、「純種の良いぶどう」すなわち唯一まことの神のみを拝むことをせず、異国の風習に染まって異教の神々を拝み、「質の悪い雑種のぶどう」になっていた。それゆえイエスは、わたしこそが信じるべき頼るべきまことの神なのだ、と言っておられるのである。
- * 「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。」（ヨハネ15：3）主イエスは「あなたがた」すなわち弟子たちに話しておられる。弟子たちは、イエスとともに生活してきて多くのことばを直接イエスから受けてきよめられ、実を結ぶ素地ができてい、ということであろう。しかし、どうしたら実際に実を結ぶことができるのか。「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです」（15：5）主イエスは、弟子たちにご自分との関係をぶどうの木と枝の関係で説明される。「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。」 そうしないと実を結ばない。イエスは神であり、いのちの泉、根源であるから、私たち枝は幹に繋がっていただければ必要な養分をいただいて生きることができるのである。
- * 「とどまる」とはどういうことか。ヨハネはこの前後に「愛」のことを述べていて、「イエスにとどまる」とは、イエスを愛することと同じである。イエスを愛する人とはイエスの戒めを保ち、それを守る人である（ヨハネ14：21）。従ってイエスにとどまるとはイエスのことばをいつも心にとどめ、それを行う人であると言える。
- * 主イエスは私たちが良い実を結ぶことを願っておられる。良い実ができてい、かどうかは、私たちが変えられてパウロが言っている「御霊の実」のいずれかが私の中に少しでも表れているかどうかによってわかる。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」（ガラテヤ5：22～23）
イエスから離れないでいつもつながってよう。